

マレーシアのビジネス環境 -ASEAN 中でのマレーシア

日本貿易振興機構（ジェトロ）

クアラルンプール事務所

海外投資アドバイザー 嶋田圭司

2023年9月7日

- ・ 完成車メーカーと自動車部品サプライヤーで40年以上勤務。海外関連業務を通じて関わった国は100カ国以上、また訪問国は50カ国ほど。
- ・ 海外駐在は、ロサンゼルス、シンガポール、バンコク、上海、大連で通算18年。
- ・ 現地法人4社においてマネジメントを経験。そのほか、経営企画業務を中心に、貿易実務、販売、マーケティング、工場運営、人事、総務、法務、IT管理、経理など幅広い業務に従事。
- ・ 2022年12月よりジェトロ・クアラルンプール事務所にて経済連携アドバイザー。

JETRO HP より

目次

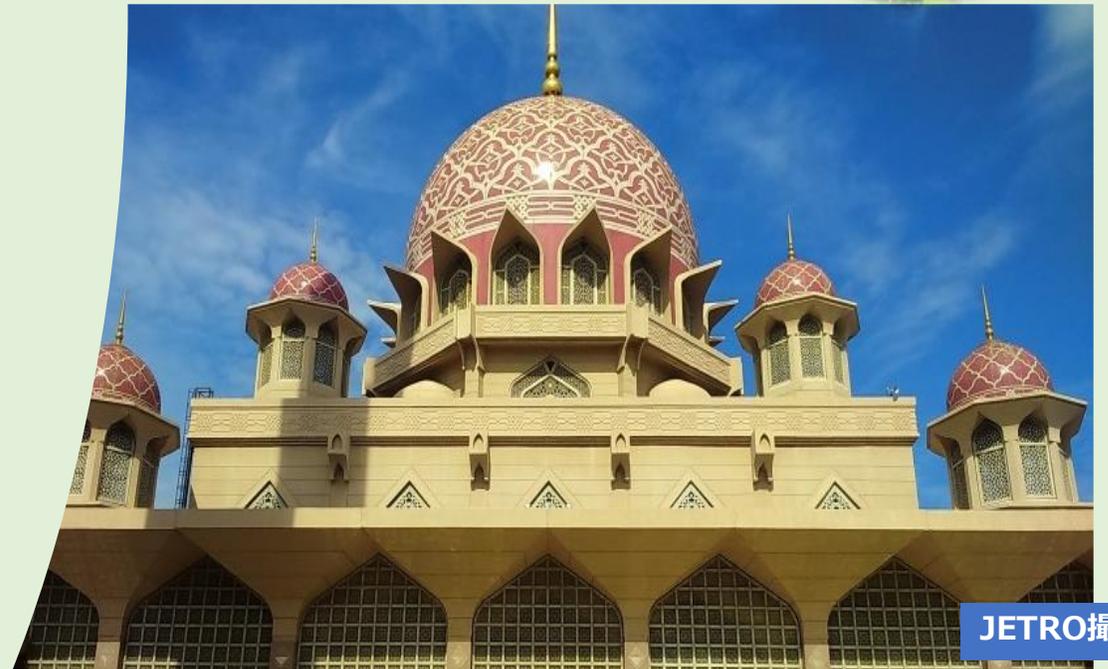
今回のテーマ

日本から質問、出張者へのブリーフィングなどに対応する材料の提供

- ・ マレーシアはどんなところ？
- ・ マレーシアの優位性はどこにあるのか？
- ・ 今後、成長が期待される分野は？

1. 政治・経済一般概況（説明省略）
2. マレーシアのビジネス環境
-ASEAN 中でのマレーシア
3. 投資概況
4. 概況のまとめ・有望産業分野

1. 政治經濟 一般概況



1 | 1) 国土

- ・半島マレーシアと東マレーシア
- ・半島マレーシア 西海岸が経済・ビジネスの中心



(出所) マレーシア統計局「州別社会経済統計」を基に作成

1 | 2) 基本情報

- ・面積 日本の約90%、人口 日本の約25%
- ・多民族国家、宗教も多彩、英語でビジネス可能

面積： 約33万km² (日本の約87%)

人口： 3,338万人 (日本の約27%) ※2023年推定値 (含 外国人)

ブミプトラ ^注	： 63.9%	(2,133万人：前年比 +0.9%)
うち、マレー系	： 52.8%	(1,761万人：前年比 +1.0%)
うち、その他先住民	： 11.1%	(371万人：前年比 +0.7%)
華人系	： 20.6%	(686万人：前年比 △0.3%)
インド系	： 6.0%	(200万人：前年比 △0.1%)
その他	： 0.7%	(23万人：前年比 +1.8%)
外国人	： 8.9%	(296万人：前年比 +23.0%)

宗教： 国教はイスラム教 (信教は自由 *連邦憲法第11条)

イスラム教 63.5%、仏教 18.7%、キリスト教 9.1%、ヒンドゥー教 6.1% (※2020年)

人口・宗教(出所) マレーシア統計局 2020年

言語： マレー語(公用語)、英語、中国語、タミル語

1 | 3) 政治 歴代政権

- ・マハティール政権： 4代目 ルックイーストポリシーが有名 親日的風土が醸成
7代目 世界最高齢（当時92歳）で 2度目の首相就任
- ・アンワル政権： 10代目 2022年11月総選挙で誕生。18政党による連立政権

初代	アブドゥル・ラーマン	1957-1970	国民戦線 (BN)
2代目	アブドゥル・ラザック	1970-1976	国民戦線 (BN)
3代目	フセイン・オン	1976-1981	国民戦線 (BN)
4代目	マハティール・モハマド	1981-2003.10	国民戦線 (BN)
5代目	アブドゥラ・バダウィ	2003.10-2009.4	国民戦線 (BN)
6代目	ナジブ・トゥン・ラザック ※父親は2代目アブドゥル・ラザック元首相	2009.4-2018.5	国民戦線 (BN)
7代目	マハティール・モハマド ※2度目の首相就任。世界最高齢92歳（就任時）	2018.5-2020.2	希望連盟 (PH) ※マレーシア史上初の政権交代
8代目	ムヒディン・ヤシン ※PPBMを希望連盟 (PH)より脱退、前政権である統一マレー国民組織 (UMNO)と汎マレーシア・イスラム党 (PAS)と協力	2020.3-2021.8	統一プリブミ党 (PPBM) ※2年弱で実質的に政権交代
9代目	イスマイル・サブリ ※統一マレー国民組織 (UMNO)が統一プリブミ党 (PPBM)、汎マレーシア・イスラム党 (PAS)と協力	2021.8-2022.10	国民戦線 (BN) ※1年で下院解散へ。
10代目	アンワル・イブラヒム ※前回の総選挙から議席数減らすも、政党連盟としては最多を獲得	2022.11-現在	希望連盟 (PH)

「ルック・イーストポリシー」
親日的風土の醸成

政権の短命化傾向

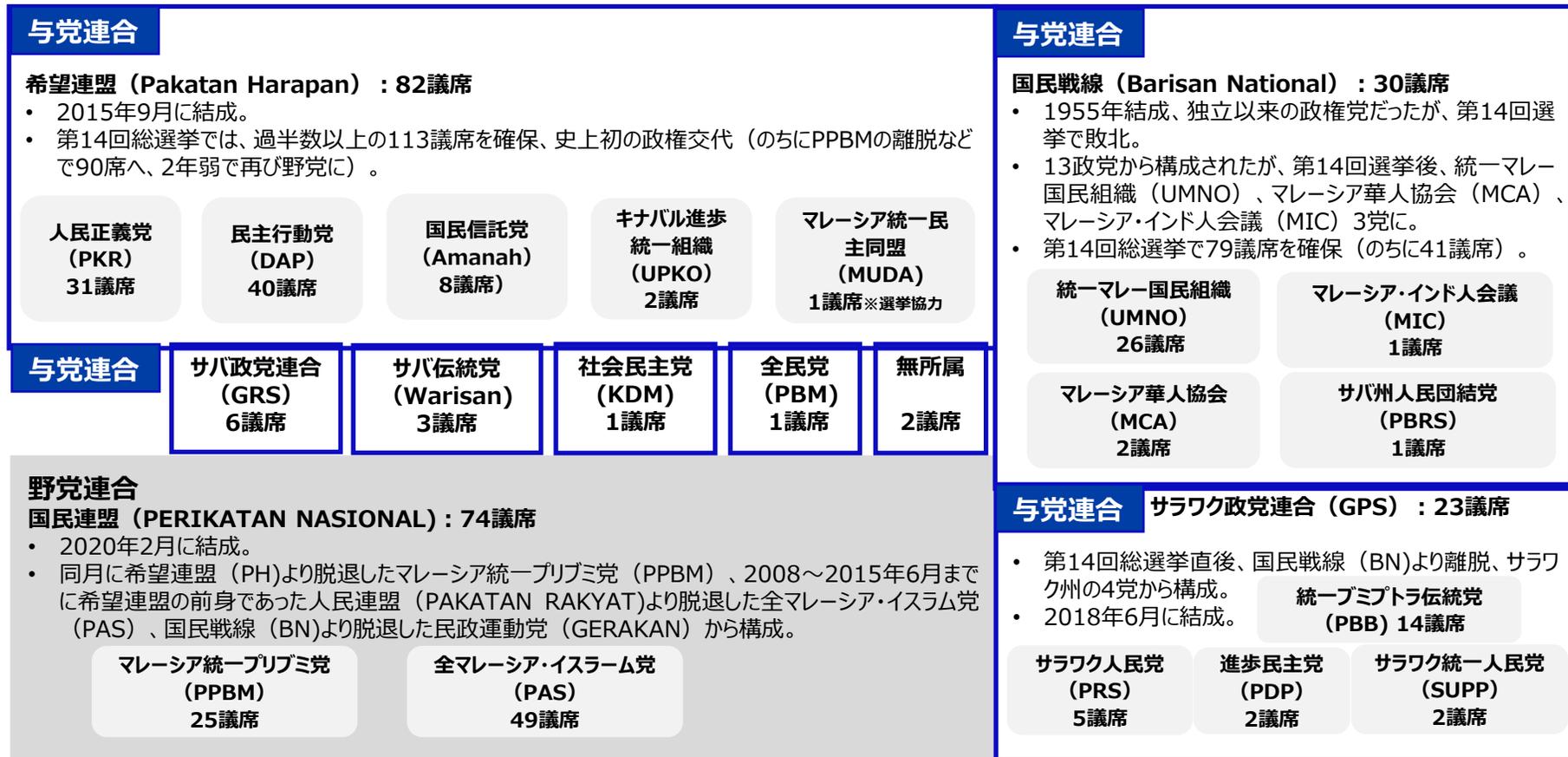


2023年8月12日
6州議会選挙結果
・選挙前と勢力図変化なし
・野党の攻勢 245議席中
146議席を獲得

1 | 4) 政治 体制と政党

- 立憲君主制（議会制民主主義）国王は9州のスルタンが5年毎の輪番制
- 連邦議会 上院 70名 任期3年 州議会と国王による任命制
下院 222名 任期5年 直接選挙制
- アンワル政権は 18政党による連立政権。

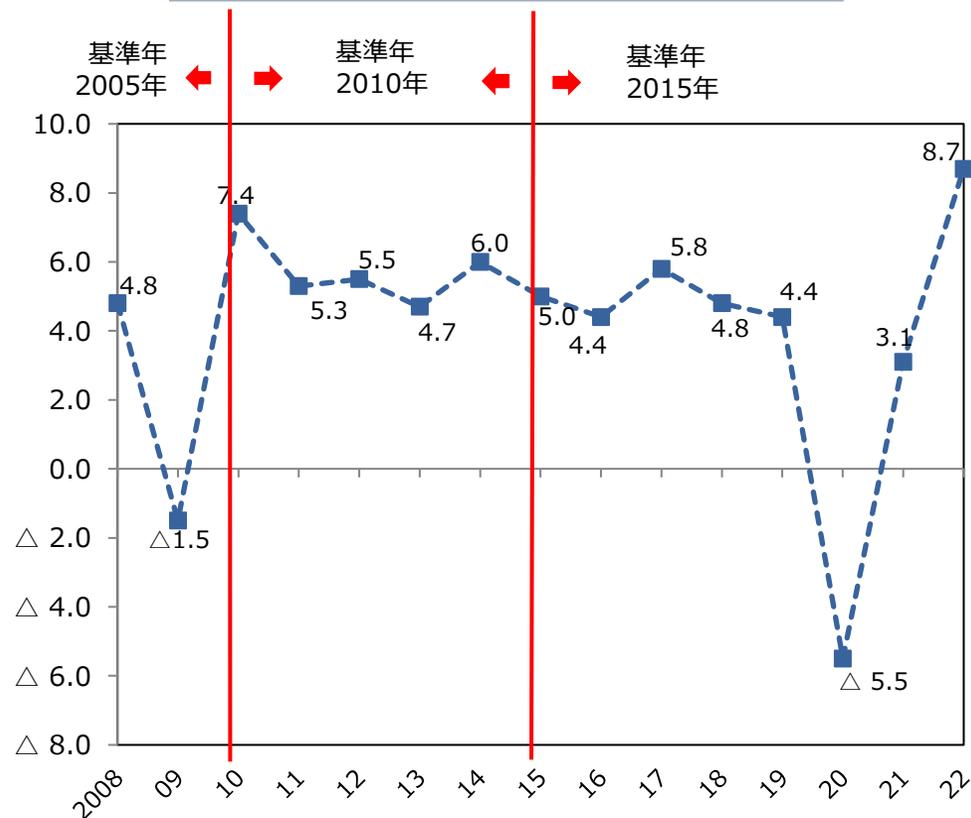
第15回総選挙後与野党構図（2022年12月13日時点：与党連合は下院222席のうち148議席確保）



1 | 5) GDP成長率

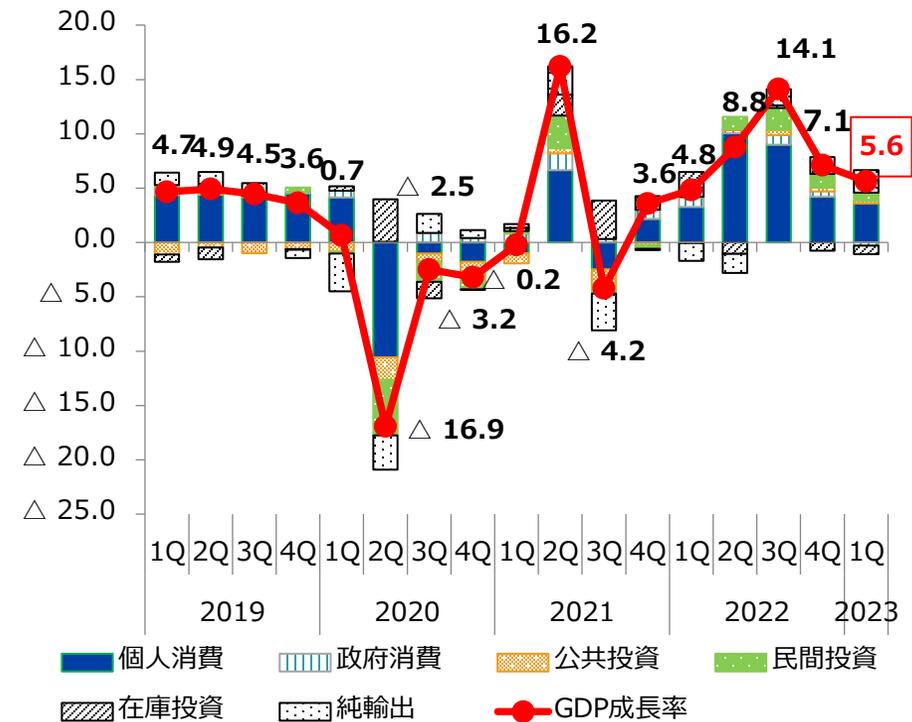
- GDP成長率は、年5%前後の安定成長(除く2009年 リーマンショック、2020年 コロナ影響)
- コロナ後、回復基調。 2023年予算の目標成長率は、4.5%

実質GDP成長率の年間推移 (%)



(注) 前年同期比
(出所) マレーシア統計局・中央銀行の「四半期ごとGDP」

四半期別GDP成長率と寄与度 (%)



23年4-6月期の速報 2.9%
成長のスピードが鈍化傾向

1 | 6) 産業別GDP

GDPに占める割合：サービス業 約60% 製造業 約25%うち、電子・電気産業約6%
 主要産業: 製造業(電子部品/通信機器/家電)、 鉱業(原油/天然ガス)、 農林業(パーム油/天然ゴム)

産業区分	2019年		2020年		2021年		2022年	
	GDP(兆円)	構成比	GDP(兆円)	構成比	GDP(兆円)	構成比	GDP(兆円)	構成比
農業	3.07	7.1%	3.00	7.4%	3.00	7.1%	3.00	6.6%
天然ゴム	0.09	0.2%	0.07	0.2%	0.07	0.2%	0.05	0.1%
パーム油	1.16	2.7%	1.12	2.7%	1.05	2.5%	1.09	2.4%
畜産業	0.47	1.1%	0.48	1.2%	0.50	1.2%	0.50	1.1%
その他農業	0.80	1.9%	0.83	2.0%	0.88	2.1%	0.85	1.9%
林業	0.19	0.4%	0.16	0.4%	0.16	0.4%	0.15	0.3%
漁業	0.24	0.6%	0.22	0.5%	0.22	0.5%	0.22	0.5%
養殖業	0.12	0.3%	0.12	0.3%	0.12	0.3%	0.13	0.3%
鉱業	3.11	7.2%	2.81	6.9%	2.84	6.7%	2.91	6.4%
原油他	1.29	3.0%	1.16	2.9%	1.10	2.6%	1.07	2.3%
天然ガス	1.53	3.6%	1.39	3.4%	1.49	3.5%	1.58	3.5%
その他	0.30	0.7%	0.26	0.6%	0.25	0.6%	0.26	0.6%
製造業	9.57	22.2%	9.31	22.8%	10.20	24.2%	11.02	24.1%
食品製造	1.20	2.8%	1.17	2.9%	1.19	2.8%	1.27	2.8%
石油製品	1.18	2.7%	1.07	2.6%	1.21	2.9%	1.27	2.8%
化学製品・医薬品	1.02	2.4%	0.97	2.4%	1.08	2.6%	1.11	2.4%
ゴム製品	0.24	0.6%	0.37	0.9%	0.45	1.1%	0.37	0.8%
プラスチック製品	0.31	0.7%	0.32	0.8%	0.36	0.8%	0.37	0.8%
電子部品・家電・通信機器	1.87	4.3%	1.93	4.7%	2.24	5.3%	2.62	5.7%
その他製造業	3.75	8.7%	3.48	8.5%	3.67	8.7%	4.01	8.8%
建設業	2.01	4.7%	1.62	4.0%	1.54	3.7%	1.62	3.5%
サービス業	24.84	57.6%	23.54	57.8%	24.05	57.1%	26.68	58.3%
卸売	3.26	7.6%	3.09	7.6%	3.20	7.6%	3.32	7.3%
小売	3.34	7.8%	3.15	7.7%	3.24	7.7%	3.84	8.4%
食品・飲料	1.21	2.8%	0.96	2.4%	0.88	2.1%	1.07	2.3%
情報通信	2.55	5.9%	2.70	6.6%	2.86	6.8%	3.01	6.6%
その他サービス	14.48	33.6%	13.64	33.5%	13.87	32.9%	15.44	33.8%
関税	0.49	1.1%	0.46	1.1%	0.47	1.1%	0.51	1.1%
合計	43.09	100.0%	40.74	100.0%	42.10	100.0%	45.74	100.0%

(出所) マレーシア統計局
 *1RM=30.27円にて換算
 *実質GDPは2015年基準

1 | 7) 主要輸出品目

- ・電気・電子製品は、マレーシアの総輸出額の約40%
- ・原油・天然ガス・パーム油・天然ゴム・木材とその関連商品(ゴム手袋は、世界需要の3分の2生産)

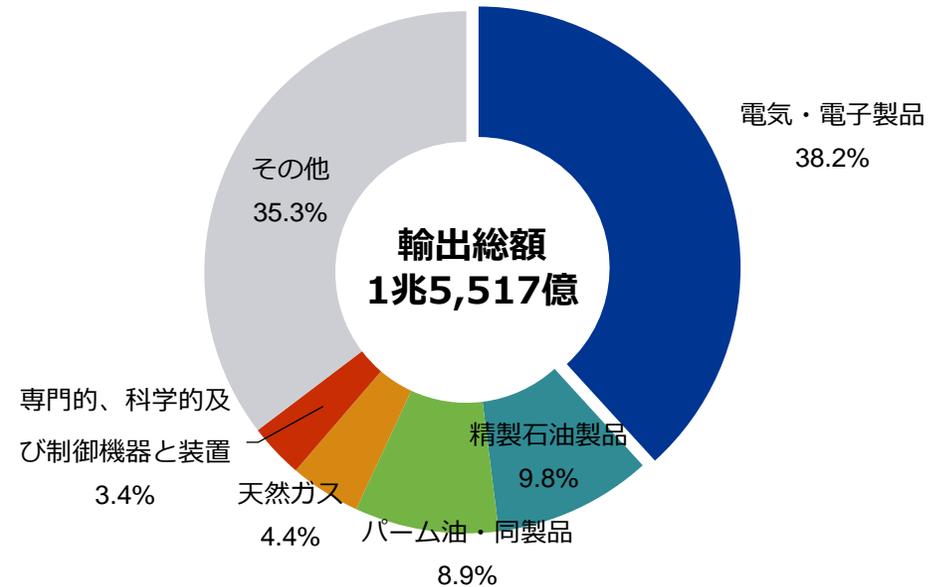
主要輸出品目

(単位：億リンギ、%)

	2021年	2022年		
	金額	金額	構成比	伸び率
電気・電子製品	455,953	593,495	38.2	30.2
石油製品	86,160	151,660	9.8	76.0
パーム油・同製品	108,515	137,891	8.9	27.1
液化天然ガス (LNG)	38,193	67,986	4.4	78.0
専門・科学・制御機器	42,877	52,318	3.4	22.0
原油	18,372	31,552	2.0	71.7
木材・同製品	22,794	25,213	1.6	10.6
ゴム手袋	54,813	19,041	1.2	△ 65.3
鉄鋼製の棒	13,688	14,968	1.0	9.4
冷暖房設備・部品	6,580	8,486	0.5	29.0
合計 (その他含む)	1,241,022	1,551,736	100.0	25.0

(出所) マレーシア統計局

輸出上位概況品別比率



(出所) マレーシア統計局の資料をJETRO基に作成

- ・マレーシアの電気・電子産業は主要3分野が牽引
①半導体 ②太陽光 ③LED
- ・日系製造業の33%強が電気・電子産業分野
電子部品(集積回路/半導体等) 家電などの日系製造業が進出

1 | 8) 平均世帯月収

- ・ 富裕層と中間層が増加傾向
- ・ 都市と農村では、都市部が約1.7倍。中華系はマレー系の1.4倍
- ・ 2022年5月 最低賃金の25%アップ（最低賃金 1,500RM/月）

平均世帯月収（所得区分、民族、都市・農村別）

項目	区分	2016年	2019年	年平均増加率	格差
所得区分別	富裕層 (T20)	488,432円	561,842円	4.7%	富裕層 / 低所得層 5.9倍
	中間層 (M40)	197,401円	223,085円	4.1%	
	低所得層 (B40)	86,465円	95,695円	3.4%	
民族別	華人系	265,650円	300,412円	4.1%	華人系 / マレー系 1.4倍
	インド系	217,074円	249,438円	4.6%	
	マレー系	190,266円	215,343円	4.1%	
都市・農村別	マレーシア	211,245円	239,874円	4.2%	都市部 / 農村部 1.7倍
	都市	232,892円	262,159円	3.9%	
	農村	132,339円	151,921円	4.6%	

最低賃金の推移

	2013年7月		2016年7月		2019年1月		2020年1月		2022年5月	
マレー半島部	RM	900	RM	1,000	RM	1,100	RM	1,200	RM	1,500
東マレーシア	RM	800	RM	920						

(注1) 2020年2月より、東マレーシアを含む56主要都市を対象に引き上げ
 (注2) 従業員5人未満の雇用主に対しては2023年1月から適用
 (備考) 東マレーシアは、サバ、サラワク、ラブアン

平均世帯月収（州別）

州 (括弧内は連邦直轄領)	平均世帯月収 (2020年)
マレーシア全体	215,222円
① ペルリス	150,920円
② ケダ	151,952円
③ ペナン	207,966円
④ ペラ	154,259円
⑤ クランタン	133,918円
⑥ トレンガヌ	183,708円
⑦ パハン	156,172円
⑧ セランゴール (クアラルンプール) (プトラジャ)	293,520円 356,062円 374,096円
⑨ ネグリ・スンビラン	187,746円
⑩ マラッカ	218,167円
⑪ ジョホール	220,535円
⑫ サバ (ラブアン)	158,327円 222,630円
⑬ サラワク	154,441円

(出所) マレーシア統計局、マレーシア人的資源省 *1RM=30.36円にて換算

2. ビジネス環境 -ASEAN 中での マレーシア



2 | 1) ビジネス環境項目の高い世界ランク

- ・ ビジネス環境の各項目でマレーシアはASEAN 第2位、グローバルでも上位の位置

上段：全体順位 下段：アセアン内順位

項目	単位	備考	マレーシア	シンガポール	タイ	インドネシア	フィリピン	ベトナム	日本
ビジネスの しやすさ	190カ国中	2019年	12位	2位	21位	73位	95位	70位	30位
			2	1	3	5	6	4	

(出所) World Development Indicators (Dec. 2022)

世界競争力	64カ国中	2023年	27位	4位	30位	34位	52位	N/A	34位
			2	1	3	4	5		

(出所) 国際経営開発研究所 (IMD) 世界競争力ランキング 2023

インフラ基盤	141カ国中	2019年	35位	1位	71位	72位	88位	41位	5位
			2	1	4	5	6	3	

(出所) WEF 「The Global Competitiveness Report 2019」

デジタル 競争力	63カ国中	2022年	31位	4位	40位	51位	56位	N/A	29位
			2	1	3	4	5		

(出所) IMD 「World Competitiveness Booklet 2023」

グローバルイ ノベーションINDEX	132カ国中	2022年	36位	7位	43位	75位	59位	48位	13位
			2	1	3	6	5	4	

(出所) WIPO 「Global Innovation Index 2022」

国際人材 競争力	63カ国中	2022年	33位	12位	45位	51位	54位	N/A	41位
			2	1	3	4	5		

(出所) IMD 「World Competitiveness Booklet 2023」

2 | 2) 購買力の高さ

- ASEAN No.1 の富裕層 690万人
- 富裕層+上位中間層 で 人口の3分の2
- 廉価な住居費+自家用車で、生活に余裕

下段：アセアン内順位

項目	単位	備考	マレーシア	シンガポール	タイ	インドネシア	フィリピン	ベトナム	日本
GNI/人	USD	2022年	11,780	67,200	7,230	4,580	3,950	4,010	42,440
			2	1	3	4	6	5	

(出所) The World Bank [World Development Indicators]

富裕層	%	2021年	20.6	79.2	3.9	2.2		1.4	61.6
上位中間層	%	2021年	46.1	15.8	15.7	14.5		7.2	28.3
合計			66.7	95	19.6	16.7		8.6	89.9
			2	1	3	4		5	

富裕層	百万人	2021年	6.9	4.3	2.8	6		1.4	77.4
上位中間層	百万人	2021年	15.5	0.9	11.2	39.7		7	35.7
合計			22.4	5.2	14	45.7		8.4	113.1
			2	5	3	1		4	

(出所) Euromonitor International, World Bank

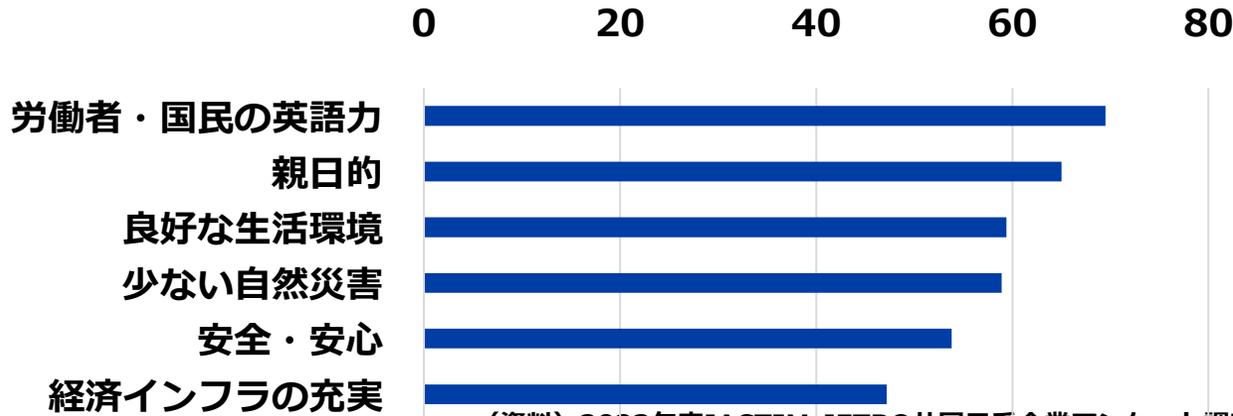
注) World Bank基準

富裕層 35,000USドル/年以上
 上位中間層 15,000USドル/年以上

2 | 3) 進出日系企業から見た魅力

- ・ 英語力は約70%の企業が評価（英語教育は小学校から、大学の授業は英語が主流）
- ・ 親日的で経済と生活インフラが充実
- ・ 安全・安心（テロ・クーデター・ストライキの心配が少ない） ・ 自然災害が少ない

マレーシアの投資先としての魅力（複数回答）



(資料) 2023年度JACTIM-JETRO共同日系企業アンケート調査

安全・安心についての補足 (注意喚起)

- ・ 殺人犯罪率 日本と同等
- ・ 窃盗犯罪率 日本の15倍
- ・ 危険情報 (外務省)
レベル3 渡航中止勧告
サバ州東側の島嶼部及び周辺海域
並びに一部のサバ州東海岸
- ・ レベル2 不要不急の渡航中止
サバ州東海岸 レベル3 発出以外の地域

上段：全体順位 下段：アセアン内順位

項目	単位	備考	マレーシア	シンガポール	タイ	インドネシア	フィリピン	ベトナム	日本
英語能力指数	111カ国中	2022年	24位	2位	97位	81位	22位	60位	80位
			3	1	6	5	2	4	

(出所) EF「EPI英語能力指数2022」

カントリーリスク	0低 7高	2023年1月	マレーシア	シンガポール	タイ	インドネシア	フィリピン	ベトナム	日本
カントリーリスク	0低 7高	2023年1月	2	0	3	3	3	4	-
			2	1	3	3	3	6	

(出所) OECD「Country Risk Classifications」

腐敗認識指数	180カ国中	2022年	マレーシア	シンガポール	タイ	インドネシア	フィリピン	ベトナム	日本
腐敗認識指数	180カ国中	2022年	61位	5位	101位	110位	116位	77位	18位
			2	1	4	5	6	3	

(出所) Transparency International「CORRUPTION PERCEPTIONS INDEX 2022」

2 | 4) 廉価な物価と生活コスト

- ・物価水準は、ASEANでは（シンガポール以外と）ほぼ横並び+インフレ率は抑制
- ・駐在員生活費は、ASEAN 第2位の安さ

項目	単位	備考	マレーシア	シンガポール	タイ	インドネシア	フィリピン	ベトナム	日本
物価指数	USA=100	2021-22年	35.2	72.1	34.7	33.1	36.5	32.4	84.9
			4	6	3	2	5	1	

(出所) WorldData.info 「Cost of living and purchasing power related to average income」

項目	単位	備考	マレーシア	シンガポール	タイ	インドネシア	フィリピン	ベトナム	日本
インフレ率	%	2023年	2.9	5.8	2.8	4.4	6.3	5	2.7
			2	5	1	3	6	4	

(出所) INTERNATIONAL MONETARY FUND

項目	単位	備考	クアラランプール	シンガポール	バンコク	ジャカルタ	マニラ	ホーチミン	日本
駐在員生活費 ランク	207都市 高い順		175位	5位	60位	114位	75位	193位	10位
			2	6	5	3	4	1	

(出所) ECA International 駐在員生活コストランキング 2023年3月

項目	単位	備考	マレーシア	シンガポール	タイ	インドネシア	フィリピン	ベトナム	日本
店舗賃料	USD/月/1㎡	2022年	20	71	26	41	21	60	63
			1	6	3	4	2	5	

(出所) JETRO調査 投資関連コスト 中心部店舗スペースでの最安値

項目	単位	備考	マレーシア	シンガポール	タイ	インドネシア	フィリピン	ベトナム	日本
オフィス賃料	USD/月/1㎡	2023年 4-6月	17.8	112.3	47.0	21.7	32.8	72.2	84.7
			1	6	4	2	3	5	

(出所) ナイトフランク（英不動産サービス）発表

2 | 5) 大きくない市場規模

- ・人口が比較的少ない。結果として、GDP規模も小さめ
- ・平均年齢は 29.6歳 2040年 4,000万人
- ・需要の中心は 20代、30代
- ・進出日系企業、在留邦人数は ASEAN 中位

項目	単位	備考	マレーシア	シンガポール	タイ	インドネシア	フィリピン	ベトナム	日本
人口	万人	2022年	3,393	563	7,169	27,550	11,555	9,818	12,512
			5	6	4	1	2	3	

(出所) The World Bank 「World Development Indicators」

GDP	10億USD	2022年	406	467	495	1,319	409	409	4,231
			6	3	2	1	4	5	

(出所) The World Bank 「World Development Indicators」

進出日系企業	社	2021年	1,601	882	5,856	2,046	1,377	2,306
			4	6	1	3	5	2

(出所) 外務省「海外進出日系企業拠点数調査(2021年調査結果)」

海外在留邦人	人	2022年10月	24,545	32,743	78,431	15,972	14,522	21,819
			3	2	1	5	6	4

(出所) 外務省「海外在留邦人数調査統計(令和4年10月1日現在)」

2 | 6) 賃金レベルは、高め

・ ASEAN 比較では、所得レベルが高く、賃金レベルは高め

項目	単位	備考	マレーシア	シンガポール	タイ	インドネシア	フィリピン	ベトナム	日本
GNI/人	USD	2022年	11,780	67,200	7,230	4,580	3,950	4,010	42,440
			2	1	3	4	6	5	

(出所) The World Bank 「World Development Indicators」

富裕層	%	2021年	20.6	79.2	3.9	2.2		1.4	61.6
上位中間層	%	2021年	46.1	15.8	15.7	14.5		7.2	28.3
合計			66.7	95	19.6	16.7		8.6	89.9
			2	1	3	4		5	

(出所) The World Bank 「World Development Indicators」



項目	単位(USD)	備考	マレーシア KL	シンガポール	タイ バンコク	インドネシア ジャカルタ	フィリピン マニラ	ベトナム ホーチミン	日本 東京
製造業	ワーカー	2022年	430	1,905	385	407	294	311	2,140
賃金	エンジニア	2022年	818	2,681	663	614	495	591	2,790
	課長クラス	2022年	1,649	4,195	1,884	1,353	1,051	1,253	4,207
			5	6	4	3	1	2	

(出所) JETRO調査 投資関連コスト

2 | 7) 国内物流・港湾設備能力共に整備

- ・南北ハイウェイ、東西ハイウェイによる都市間の物流が容易
(コールドチェーン整備に向けた政府間協力の動き)
- ・コンテナ取扱量 国別世界順位：5位 ASEAN：2位
港別順位： ポートクランは世界12位

高速道路網

- ・南北：アロースターからジョホールバルまで約800km
- ・東西：クアラルンプールからクアンタンまで約300km



高速道路の整備状況



コールドチェーン整備に向けた政府間協力の動き

- ・インフラは整備されているが、温度管理が不十分
- ・2021年3月、国土交通省は「マレーシアにおける日本式コールドチェーン物流サービス規格（JSA-S1004）の普及に向けたアクションプラン」を策定
- ・マレーシア政府も2025年までに、国家規格を策定したい考え

(出所) expatgo.com、国土交通省、Nielsen

項目	単位	備考	マレーシア	シンガポール	タイ	インドネシア	フィリピン	ベトナム	日本
コンテナ 取扱量	万TEU	2020年	2,666	3,687	1,021	1,403	751	1,242	2,139
	GLOBAL		5	3	19	15	25	16	6
	ASEAN		2	1	5	3	6	4	

(出所) 公益社団法人 日本港湾協会 <https://www.phaj.or.jp/distribution/data/lanking.html>

2 | 8) ハラルハブ

- ・イスラム経済市場規模 2021年 2.0兆ドル
- ・世界イスラム経済指標ランキングで81カ国/地域中、総合首位

- ・マレーシアの市場規模 2018年 684億ドル
2030年目標 1,132億ドル
(出所) ハラル産業マスタープラン

・ハラル認証の信頼性の高さ

ハラル認証は、マレーシアイスラム開発局 (JAKIM)が発行
JAKIMの認証機関は世界46カ国 83機関 (日本 6機関)
認証対象は、加工食品、飲料、化粧品、サプリ、医薬品、物流
レストラン。消費財。食肉処理場など

- ・ハラル原料の入手のしやすさ
- ・グローバル展開するマレーシア企業・人材
- ・ハラル工業団地 全国21カ所



マレーシア貿易開発公社 (MATRADE) が
主催するマレーシア最大規模のハラル見本市
ハラル商材 (食品、イスラム金融、化粧品、
物流、観光等) が幅広く出品される。
2023年9月12日~15日

世界イスラム経済指標ランキング (2022年)

順位	総合	食品	医薬品・化粧品
1位	マレーシア	マレーシア	シンガポール
2位	サウジアラビア	インドネシア	マレーシア
3位	UAE	トルコ	オランダ
4位	インドネシア	ロシア	ベルギー
5位	トルコ	UAE	フランス
6位	バーレーン	カザフスタン	エジプト
7位	シンガポール	シンガポール	トルコ
8位	クウェート	サウジアラビア	UAE
9位	イラン	南アフリカ共和国	インドネシア
10位	ヨルダン	オーストラリア	英国

(注) 世界イスラム経済指標は、市場規模、ガバナンス、認知度、社会的影響度、イノベーションなどを基にスコア化。食品、医薬品/化粧品、イスラム金融、旅行、モデストファッション、メディア/娯楽の全6分野を指標化。

(出所) 2022年世界イスラム経済レポート (State of the Global Islamic Economy Report 2022)

3.投資の概況



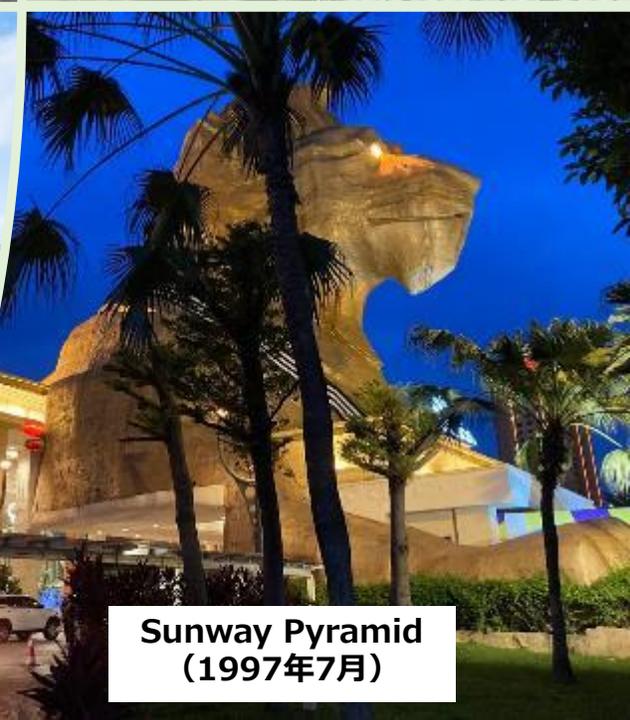
Mid Valley Megamall
(1999年11月)



Pavilion Bukit Jalil
(2021年12月)



LaLaport BBCC
(2022年1月)



Sunway Pyramid
(1997年7月)

出所) 各社ホームページ等

3 | 1) 国別直接投資

・ 2022年は、米国の投資が顕著。シンガポール／日本が続く。

マレーシアへの直接投資（フロー）

（単位：百万リンギ）

	国名	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年1Q
1位	米国	7,080	2,556	1,274	8,280	37,843	901
2位	シンガポール	△816	3,536	5,529	8,873	11,333	1,273
3位	日本	4,959	10,531	2,273	2,098	9,613	473
4位	香港	7,189	8,587	1,177	2,201	6,326	1,667
5位	中国	562	493	2,521	2,057	3,614	623
6位	ドイツ	2,087	△700	△1,076	△1,405	3,590	189
7位	ケイマン諸島	△3,476	△1,321	△2,562	△2,277	2,498	1,098
8位	韓国	△53	926	132	4,720	2,064	1,099
9位	タイ	246	△99	3,190	△1,872	1,711	143
10位	バージン諸島	△350	666	1,943	4,153	1,234	△166
	世界計	30,741	32,364	13,281	50,438	74,552	12,044

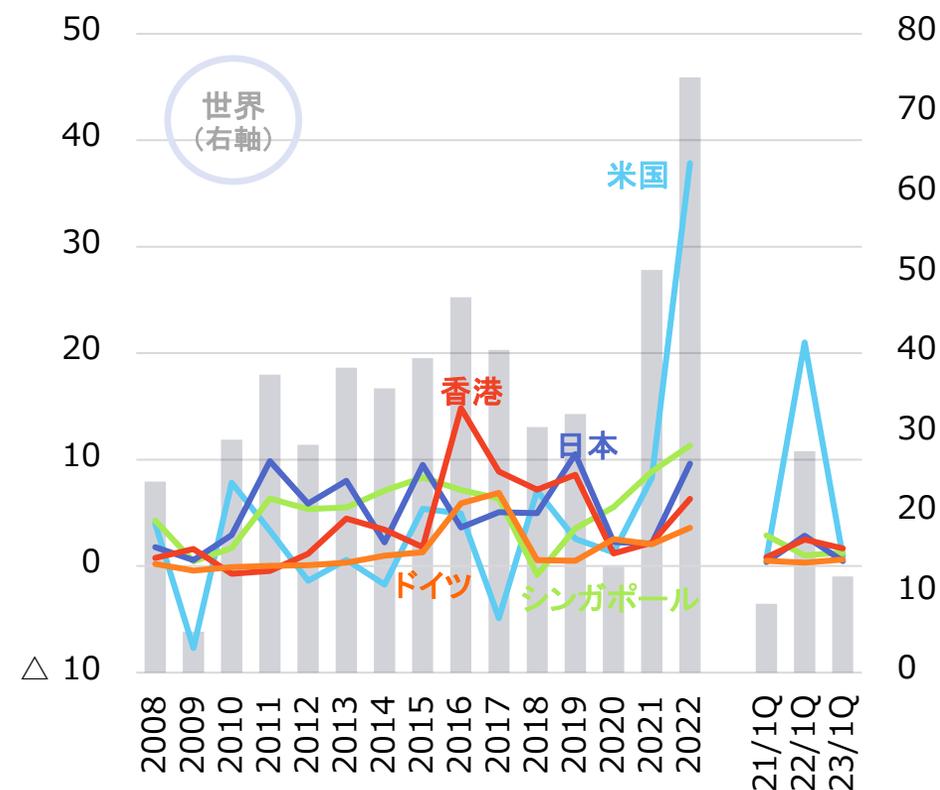
（注1）国際収支ベース。

（注2）2022年通年の対内直接投資上位国を表示。

（出所）マレーシア中央銀行。

国別対内直接投資（ネット、フロー）

（10億リンギ）



3 | 2) 日系進出企業

- ・ 1,585社分類(進出企業計 1,601社 除く 政府、非営利団体)
- ・ 製造業の33%強は電気／電子分野
- ・ 進出日系企業は、セランゴール州／KL集中、特に 非製造業は、85%集中

製造業	セラン ゴール	KL	ジョ ホール	ペナン	その他	小計	非製造業	セラン ゴール	KL	ジョ ホール	ペナン	その他	小計
電気・電子製造	111	11	51	29	58	260	販売会社・代理店	108	40	5	18	10	181
鉄鋼・非鉄金属製品	39	2	20	17	22	100	商社・卸売	61	70	2	8	22	163
化学・医薬	40	5	15	14	23	97	建設・土木	28	47	5	2	1	83
輸送機械・部品製造	37	2	6	3	20	68	物流・倉庫	48	7	2	2	3	62
機械製造	32	6	7	8	7	60	専門サービス	13	33				46
食品・飲料	8	4	11	2	5	30	IT・ソフトウェア	24	16	1			41
木材・木製品	4		3	1	20	28	飲食店	6	21	1	2	1	31
ゴム製品	8		7	3	8	26	金融・保険	2	22			4	28
紙・パルプ	11	1	7	1	3	23	旅行・宿泊	2	12	1	1	8	24
その他製造業	30	3	14	7	17	71	その他非製造業	59	87	10	4	3	163
製造業小計	320	34	141	85	183	763	非製造業小計	351	355	27	37	52	822

(出所) JETRO保有データより編集

3 | 3) 最近の製造業認可投資 (2021年1月～2023年2月)

- ・ 米国の半導体投資が顕著
- ・ 日本と欧州も半導体関連の投資が多い

マレーシアに対する主な対内投資案件(2021年～)

発表時期	国・地域	企業名	業種	概要	投資州
2021/01	韓国	SK Nexilis	電子自動車バッテリー	新規	サバ
2021/02	日本	王子ホールディングス	段ボール	新規	セランゴール
2021/02	日本	デンソー	先端半導体	拡張	セランゴール
2021/06	オーストリア	AT&S	半導体製造装置	新規	ケダ
2021/06	中国	東方日昇新能源	太陽電池・モジュール	新規	ケダ
2021/08	米国	Lam Research	半導体製造装置	新規	ペナン
2021/09	日本	太陽誘電	積層セラミックコンデンサ	新規	サラワク
2021/12	オランダ	Nexperia	集積回路の設計開発	新規	ネグリセンビラン
2021/12	米国	Intel	半導体	新規	ペナン
2021/12	日本	ローム・ワコー	半導体	拡張	クランタン
2022/02	日本	メニコン	コンタクトレンズ	拡張	ケダ
2022/02	ドイツ	インフィニオン	半導体	拡張	ケダ
2022/02	米国	センサータ	センサー・制御部品	拡張	セランゴール
2022/04	米国	TTM	プリント基板	新規	ペナン
2022/05	米国、中国	TF-AMD	半導体	拡張	ペナン
2022/07	韓国	サムスンSDI	EV向け電池セル	拡張	ネグリセンビラン
2022/08	韓国	OCIM、錦湖 P & B 化学	化学・医薬	新規	サラワク
2022/09	中国	鵬程翔実業	精密金属部品	新規	ネグリセンビラン
2022/11	台湾	日月光投資控股	半導体	新規	ペナン
2022/12	米国	マイクロン・テクノロジー	半導体	拡張	ペナン
2022/12	日本	興亜電工	マイクロチップ	新規	マラッカ
2023/01	米国	インテル	半導体	拡張	ケダ
2023/02	台湾	エルナープリントドサーキット	プリント基板	拡張	ペナン

(出所) マレーシア投資開発庁 (MIDA)、各種報道

4.概況のまとめ

プトラ・モスク (イスラム教)



出所) <https://www.pexels.com/>

バトゥ洞窟 (ヒンドゥー教)



JETRO撮影

セントマリー聖堂 (キリスト教)



JETRO撮影

天后宮 (仏教)



JETRO撮影

4 | まとめ（一般概況からみた有望分野）

・ビジネス環境はASEAN 第2位／グローバル上位

・廉価な物価、生活費

・安心・安全、テロ、クーデター、ストライキの心配が少ない

・英語のコミュニケーションが可能。

・高い購買力（富裕層＋上位中間層が3分の2）

・国内物流、港湾設備の充実 コールドチェーン改善

・半島西海岸、大都市。経済・人口集中

・多民族国家、多彩な宗教

・イスラム経済指標 第一位 ハラル認証の高い信頼性

・市場規模は小さめ ・賃金レベルは高め

・電気/電子産業への旺盛な海外投資

・ASEANに**新規進出を目指す企業**
（スタートアップ企業を含む）

・消費市場 **小売業**（輸出先としての魅力）

注) ショッピングモール数 全土で500以上
一人当たりのモール面積はシンガポール以上

・マレーシアから**物流/ASEANハブ**へ
（更に インド・中東市場）

・コールドチェーン分野

・**テストマーケティング**の容易さと価値

・イスラム経済圏の玄関 ・**ハラルハブ**

・製造業の中心は**電気/電子産業**

特に 先端半導体など

・**ASEANハブ/物流ハブ**と**セット**がベター

4 | まとめ（政府方針・施策からの有望分野）

マレーシア一般概況から見た有望分野

- ・ ASEANに**新規進出を目指す企業**
(スタートアップ企業を含む)
- ・ 消費市場 **小売業** (輸出先としての魅力)
- ・ マレーシアから**物流/ASEANハブ**へ
(更に インド・中東市場)
- ・ コールドチェーン分野
- ・ イスラム経済圏の玄関 **・ ハラルハブ**
- ・ **テストマーケティング**の容易さと価値
- ・ 製造業の中心は**電気/電子産業**
特に 先端半導体など
- ・ **ASEANハブ/物流ハブとセット**がベター

マレーシア政府の方針から見た有望分野

- 「シェアードプロスペリティビジョン2030」
2030年までの国家運営基本方針の中で
15の重点経済成長分野活動(15KEGAs)
- ・ ASEANハブ **・ 物流ハブ**
 - ・ ハラルハブ **・ イスラムハブ**
 - ・ 再生可能エネルギー

- 「第12次マレーシア計画（2021-2025）」
- ・ 電気・電子 **・ ハラル産業**
 - ・ 航空宇宙 **・ クリエイティブ**
 - ・ グローバルサービス **・ 観光**
 - ・ バイオマス **・ スマート農業**

- 新産業マスタープラン（NIMP）2030 2023年9月1日
- ・ マダニ経済政策(*)の重要な実現手段
 - ・ 製造業付加価値額 5,875億リンギ(6.5%/年増 22年比)
 - ・ 4つのミッション
 - － 経済の複雑性の推進
 - － 国家デジタル化に向けた技術力向上
 - － 脱炭素の推進
 - － 経済安全保障と包摂性を確保

(*)
[政権初の国家政策「マダニ経済政策」、構造改革による5.5%超の経済成長目指す\(マレーシア\)|ビジネス短信 - ジェトロの海外ニュース - ジェトロ \(jetro.go.jp\)](#)